

## 2009 年度 学校自己評価の報告

「学校教育法」および「学校教育法施行細則」に基づき、2009 年度に本校が実施した「学校自己評価」の内容を次の通り報告します。

## I. 実施方法

校内に自己評価委員会を設置、同委員会で「自己評価アンケート」を作成した。調査対象は本校の教職員（非常勤講師、実習助手、臨時職員は除く）とし、1月末に実施、同年2月に集計・分析を行ない、3月に設置者（理事会）に報告した。

実施日：2010年1月22日アンケート用紙配付、1月22～30日の期間に回収

調査対象：本校教職員（教員79名、事務職員9名）

評価項目：1. 学校運営 2. 教育内容 3. 生徒指導・支援 4. 教育研修・資質向上 の4分類について、それぞれに評価の観点項目を設けて評価を行った。

なお、評価結果を検討するにあたり参考データとして「職域」「本学園の勤務年数」の調査（基礎調査）も行った。

評価方法：4段階評価で実施した。

- |              |               |     |        |
|--------------|---------------|-----|--------|
| A.よくあてはまる    | B.ややあてはまる     | ……… | プラス評価  |
| C.あまりあてはまらない | D.まったくあてはまらない | ……… | マイナス評価 |

## II. 2009年度の「教育の目標」と「重点目標」

教育の目標	本校の教育理念を浸透させ、「自主・自律」の精神と幅広い「職業観」を養う。
今年度の重点目標	・「あいさつ・掃除・身だしなみ」の徹底 ・目的を持った進路選択と進学実績の向上

## 総合評価

教育目標の「職業観の養成」に関する取り組みは、企業探究学習や高大連携プログラムなどの一連の教育活動として反映され、学校全体に浸透しつつある。しかし、「全生徒たちに十分伝え切れているか」についてはまだ不十分な点も見られ、今後も継続した取り組みが必要である。

重点目標の“「あいさつ・掃除・身だしなみ」の徹底”に関して、「あいさつ」や「掃除」の習慣はかなり定着している。「身だしなみ」に関してはまだ教員の力量による指導力の差も見られる。この重点目標が学校改革の基本となることを各教員が理解し、統一した指導の実践を進めてゆきたい。

“目的を持った進路選択と進学実績の向上”に関しては、昨年より進学実績は向上しているものの、まだ十分とは言えない。学内進学や指定校推薦などの安易な入試方法に流れる傾向が多く見られ、また、進学実績に関しては年度によりばらつきが見られる。個人の指導力のみには頼らない統一的な指導システムの確立が必要と思われる。

### Ⅲ. アンケート項目別評価

#### 1. 学校運営

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

分類	評価の観点	評価項目	設問	評価割合 (%)			
				A	B	C	D
学校運営	私学の独自性	建学の精神について	建学の精神が教職員、生徒、保護者など、学校関係者によく浸透している。	10.2	45.5	43.2	1.1
		愛校心について	在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	17.0	56.8	21.6	4.5
	教育課程	学習指導要領の対応状況	教育課程は学習指導要領に沿っている。	53.4	37.5	6.8	2.3
		教育計画について	年間を通じた教育計画を各教科別に立てている。	64.8	29.5	4.5	1.1
	教職員連携	教員・教科間連携状況	教員間教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。	21.6	47.7	27.3	3.4
		教員と事務職員の連携状況	教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解、連携はとれている。	22.7	42.0	27.3	8.0
		会議の有効性	教職員会議をはじめ各種会議が有効かつ効率的に機能している。	10.2	31.8	36.4	21.6
	情報公開	ホームページの活用状況	学校ホームページで可能な範囲の情報公開をしている。	56.8	37.5	4.5	1.1
		授業公開状況	保護者などへ授業を公開している。	47.7	42.0	9.1	1.1
	危機管理	役割分担について	事故、事件、災害時に対処する役割分担が明確にされている。	26.1	45.5	25.0	3.4
		危機管理対応状況	危機管理マニュアル、警察、消防との連携、訓練など学校の安全対策は十分とられている。	23.9	51.1	20.5	4.5
	開かれた学校づくり	地域交流について	地域や地域住民との交流ができています。	8.0	39.8	42.0	10.2

- ・ 「愛校心」は育成されているものの「建学の精神」はまだ十分に浸透していない。まず教員自身が学校の歴史を学び「建学の精神」と「教育の理念」の関係を十分に認識し、生徒に伝える機会を積極的に設ける必要がある。また、新校舎には学園の歴史を紹介するコーナーを設け、生徒が日常的に「建学の精神」を学ぶ機会を多くしたい。
- ・ 教育課程についての理解は教員間に浸透し、学習指導要領に沿った内容の授業を展開している。シラバスの作成と更新、コース目標の設定や授業の見直し、検討が高評価に繋がっている。
- ・ 教員間や教員と事務職員の連携、他コース間や他学年間の連携については改善されているが、会議の有効性についてはまだ十分な評価は得られていない。今後は会議の目的や存在意義を再検討すると同時に再編も含め運営方法や連絡体制も見直す必要がある。
- ・ ホームページは内容も充実し、更新サイクルも順調であったため高い評価が得られた。また、保護者

への携帯電話網サービスや公開授業も定着し、情報公開については高評価が得られた。

- 安全点検、避難訓練、AED講習会などの定期的な実施、また学園全体での防火・防災委員会の設置やマニュアルの整備、災害時行動ハンドブックや防災カードの作成などにより、徐々に評価を上げている。今後は、組織やマニュアルの整備だけにとどまらず教員個々の危機管理意識の差を埋め、現場で柔軟な対応できるような能力を育成したい。
- 地域交流については今年度に生徒による地元保育園での活動、小学生を対象とした工学フェアへの参加などを実施したが、学校全体の取り組みとしての認知がなくまだ評価が低い。大阪市旭区との連携協定の締結、2年スーパーコース・特進コースでの「Osaka City Project」の開始、生徒会のボランティア委員会設立などを核として、今後は積極的に地域交流に取り組みたい。

## 2. 教育内容

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

分類	評価の観点	評価項目	設問	評価割合 (%)			
				A	B	C	D
教育内容	情報教育	情報能力育成	生徒の情報活用能力の育成を図っている。	30.7	52.3	15.9	1.1
		情報モラル指導	情報の発信に伴う責任など情報のモラル面の教育に十分取り組んでいる。	18.2	45.5	33.0	3.4
	人権教育	研究体制	人権尊重に関するさまざまな課題や指導方法を教員が研究する体制がある。	12.5	23.9	51.1	12.5
		教育体制	人権尊重の教育において、さまざまな学習方法で、意識を高める教育を行っている。	8.0	43.2	44.3	4.5
	環境教育	環境問題意識向上	ゴミ、リサイクル、省エネなど身近な問題から環境への関心を高める教育をしている。	11.4	50.0	30.7	8.0
		実践的態度の育成	生徒に清掃、校内美化に取り組ませている。また、施設・設備を大切にすることを育成している。	20.5	53.4	19.3	6.8
	キャリア教育	キャリア教育の推進	教育目標に沿って組織的・系統的にキャリア教育に取り組んでいる。	45.5	34.1	17.0	3.4
	健康・食育	健康・食に関する指導について	健康教育、食育などにも配慮している。	4.5	47.7	36.4	11.4
	生徒会活動	生徒会活動支援状況	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	21.6	53.4	21.6	3.4
	その他	読書推進	図書館の利用促進など読書指導に取り組んでいる。	17.0	46.6	29.5	6.8
		部活動	部活動は活発だ。	71.6	22.7	3.4	2.3
		ボランティア	ボランティア活動は活発だ。	4.5	35.2	47.7	12.5
		学校行事	体育祭、文化祭などの学校行事は活発だ。	36.4	45.5	14.8	3.4
		スポーツ・芸術文化	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	34.1	35.2	28.4	2.3
国際理解		他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れている。	3.4	35.2	38.6	22.7	

- 情報機器の充実に伴い授業成果の発表機会も増えて生徒の情報処理能力や活用能力は高まっている。情報モラルの浸透については啓蒙活動の取り組みによりネット上の問題等は発生していないものの、問題事象が起こらない限り確認するすべも無く不安感も強い。今後も様々な機会を通じて情報モラルの指導を強化し、保護者に対しても研修会を開催するなど啓蒙活動をさらに進めたい。

- ・ 人権教育に関しては研究体制、教育体制共に評価が低い。教科指導に関する研究が優先され人権教育が形式的なものに流れる傾向にある。教育活動のベースとなる人権教育の重要性を再確認するとともに、時代の変化や生徒の実態に応じた人権教育のあり方を改善したい。
- ・ 清掃や校内美化に対する指導は評価されているが、環境問題については評価が不十分である。環境問題については知識としては持っているものの、現実にはゴミの分別収集や省エネなどの実践活動には十分に至っていないのが現状である。身近な事柄への取り組みの大切さを認識させ、日常の中で出来る事柄を具体的に示すことから指導したい。
- ・ 「企業探究学習」が4年目を迎えて定着し、全国大会で受賞するなどキャリア教育の推進は評価されている。さらに、2010年度には「Josho Career-Up Challenge」を立ち上げるなど系統的な本校独自のキャリア教育として順調に発展し、教育理念である「職業観」の育成も浸透しつつある。今後も更なる教育内容の充実を図り、個々の生徒に応じた「目的を持った進学」の実現に邁進したい。
- ・ 健康教育や食育に関しては全校的な指導体制が不足しているため、まだ評価が低い。この分野については各家庭との連携が必要な部分も多く、今後は保護者への活動も強化したい。
- ・ 生徒会活動は昨年と比較して評価が高まっている。ボランティアポストに対する積極的な活動や新校舎建設中の限られた状況での文化祭運営の工夫などが評価に繋がっている。今後も生徒会を中心として生徒自身が主体的に活動する機会をさらに増やし、掲示物だけでなくホームページ等も利用して生徒会の活動状況を広く発信すると同時に、学外への活動にも目を向けて学校全体の活性化を図りたい。
- ・ 部活動に関する評価は非常に高い。恵まれた施設環境と部活動担当者の献身的な取り組みによるところが大きい。学校行事や各種の授業成果発表会などの文化活動、スポーツ活動に関しては活発であると評価されている。しかし、読書指導やボランティア活動、国際理解の評価は低い。要因としては、学内での国際交流や異文化交流の機会も不足も考えられる。今後は啓蒙活動だけに留まらず、学園内大学とも連携して活動後の達成感が得られる企画を検討したい。

### 3. 生徒指導・支援

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

分類	評価の観点	評価項目	設問	評価割合(%)			
				A	B	C	D
生徒指導・支援	生徒指導	指導方針の一貫性	生徒指導は学校の方針に従っている。	42.0	43.2	9.1	5.7
		生活指導について	生徒の生活指導に組織的に対応する体制がある。	31.8	37.5	25.0	5.7
		家庭との連携状況	生徒指導において、家庭との連携ができています。	27.3	55.7	15.9	1.1
	生徒支援	学習指導について	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	29.5	51.1	15.9	3.4
		カウンセリング体制	カウンセリングマインドを取り入れた支援体制がある。	5.7	15.9	53.4	25.0
		進路指導について	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制がある。	25.0	50.0	19.3	5.7

- ・ 生徒指導に関しては総じて評価が高い。生徒指導部を中心に、長期にわたり指導の歴史を積み重ねてきたことが現在の評価に繋がっている。また、保護者への連絡体制も整いつつあり、良い方向に向かっている。今後も社会環境、家庭環境の変化を迅速に察知し、木目細やかな対応をさらに心がけたい。
- ・ 定期的な個人面談の効果も上がり、生徒の適性に応じた学習や進路指導は評価されている。一方、内面への支援体制が不十分でその対応が遅れ気味の現状が伺える。個々の教員の資質を高めると同時に、学内のカウンセリング体制の充実や専門指導員の育成に取り組みたい。

#### 4. 教員研修・資質向上

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

分類	評価の観点	評価項目	設問	評価割合 (%)			
				A	B	C	D
教員研修・資質向上	教員研修	教員の資質向上について	教員が授業力向上に励み、教員間で授業内容を評価、意見交換などを行う機会がある。	28.4	46.6	22.7	2.3
		校内研修	効果的な校内研修計画を立案し教職員に実施している。	29.5	39.8	18.2	12.5
		初任者のサポート状況	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある。	21.6	39.8	30.7	8.0
		校外研修	教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている。	18.2	29.5	37.5	14.8
		研修成果の共有状況	研修、研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制がある。	11.4	30.7	43.2	14.8

- ・ 授業アンケート、満足度調査の実施や報告会、授業公開、定期的な校内研修会などの充実により教員の資質向上や校内研修体制はある程度評価を得ているが、校外研修や研修成果共有の評価は低く、研修制度が有効に活用できていない状況が伺える。今後の取り組みとして研修制度の整備をさらに進め、成果を共有できる体制作りと初任者のサポート体制を強化したい。

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

分類	評価の観点	評価項目	設問	評価割合(%)					
				A	B	C	D		
学校運営	私学の独自性	建学の精神について	建学の精神が教職員、生徒、保護者など、学校関係者によく浸透している。	10.2	45.5	43.2	1.1		
		愛校心について	在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	17.0	56.8	21.6	4.5		
	教育課程	学習指導要領の対応状況	教育課程は学習指導要領に沿っている。	53.4	37.5	6.8	2.3		
		教育計画について	年間を通じた教育計画を各教科別に立てている。	64.8	29.5	4.5	1.1		
	教職員連携	教員・教科間連携状況	教員間教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。	21.6	47.7	27.3	3.4		
		教員と事務職員の連携状況	教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解、連携はとれている。	22.7	42.0	27.3	8.0		
		会議の有効性	教職員会議をはじめ各種会議が有効かつ効率的に機能している。	10.2	31.8	36.4	21.6		
	情報公開	ホームページの活用状況	学校ホームページで可能な範囲の情報公開をしている。	56.8	37.5	4.5	1.1		
		授業公開状況	保護者などへ授業を公開している。	47.7	42.0	9.1	1.1		
	危機管理	役割分担について	事故、事件、災害時に対処する役割分担が明確にされている。	26.1	45.5	25.0	3.4		
		危機管理対応状況	危機管理マニュアル、警察、消防との連携、訓練など学校の安全対策は十分とられている。	23.9	51.1	20.5	4.5		
	開かれた学校づくり	地域交流について	地域や地域住民との交流ができています。	8.0	39.8	42.0	10.2		
	教育内容	情報教育	情報能力育成	生徒の情報活用能力の育成を図っている。	30.7	52.3	15.9	1.1	
			情報モラル指導	情報の発信に伴う責任など情報のモラル面の教育に十分取り組んでいる。	18.2	45.5	33.0	3.4	
人権教育		研究体制	人権尊重に関するさまざまな課題や指導方法を教員が研究する体制がある。	12.5	23.9	51.1	12.5		
		教育体制	人権尊重の教育において、さまざまな学習方法で、意識を高める教育を行っている。	8.0	43.2	44.3	4.5		
環境教育		環境問題意識向上	ゴミ、リサイクル、省エネなど身近な問題から環境への関心を高める教育をしている。	11.4	50.0	30.7	8.0		
		実践的態度の育成	生徒に清掃、校内美化に取り組ませている。また、施設・設備を大切にすることを育成している。	20.5	53.4	19.3	6.8		
キャリア教育		キャリア教育の推進	教育目標に沿って組織的・系統的にキャリア教育に取り組んでいる。	45.5	34.1	17.0	3.4		
健康・食育		健康・食に関する指導について	健康教育、食育などにも配慮している。	4.5	47.7	36.4	11.4		
生徒会活動		生徒会活動支援状況	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	21.6	53.4	21.6	3.4		
その他		読書推進	図書館の利用促進など読書指導に取り組んでいる。	17.0	46.6	29.5	6.8		
		部活動	部活動は活発だ。	71.6	22.7	3.4	2.3		
		ボランティア	ボランティア活動は活発だ。	4.5	35.2	47.7	12.5		
		学校行事	体育祭、文化祭などの学校行事は活発だ。	36.4	45.5	14.8	3.4		
		スポーツ・芸術文化	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	34.1	35.2	28.4	2.3		
	国際理解	他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れている。	3.4	35.2	38.6	22.7			
生徒指導・支援	生徒指導	指導方針の一貫性	生徒指導は学校の方針に従っている。	42.0	43.2	9.1	5.7		
		生活指導について	生徒の生活指導に組織的に対応する体制がある。	31.8	37.5	25.0	5.7		
		家庭との連携状況	生徒指導において、家庭との連携ができています。	27.3	55.7	15.9	1.1		
	生徒支援	学習指導について	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	29.5	51.1	15.9	3.4		
		カウンセリング体制	カウンセリングマインドを取り入れた支援体制がある。	5.7	15.9	53.4	25.0		
進路指導について	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制がある。	25.0	50.0	19.3	5.7				
教員研修・資質向上	教員研修	教員の資質向上について	教員が授業力向上に励み、教員間で授業内容を評価、意見交換などを行う機会がある。	28.4	46.6	22.7	2.3		
		校内研修	効果的な校内研修計画を立案し教職員に実施している。	29.5	39.8	18.2	12.5		
		初任者のサポート状況	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある。	21.6	39.8	30.7	8.0		
		校外研修	教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている。	18.2	29.5	37.5	14.8		
		研修成果の共有状況	研修、研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制がある。	11.4	30.7	43.2	14.8		

0% 25% 50% 75% 100%